

東崎山だより

令和3年11月 通刊166号

355-0044 東松山市正代755-1

電話・FAX 0493-34-6555

email: semyojuji@yahoo.co.jp

HP: tosaki.web.fc2.com/index.htm

携帯 090-2446-5209

与えられた命の縁をどう生きるか

◆「存在している」ことに感謝する

「自己」という存在は、母親の妊娠・出産という縁があって成立しますが、それはあまりに当然なこととして受け取られ、疑問を持たれることはありません。しかし、自己存在のはじまりそのものは命の縁に恵まれたためであることを、もっと意識した方が良いと思います。

生まれてきてはじめて、いろいろなことを感じたり、思ったりしながら、自己の存在を確かめることが出来ます。自分が今、ここにいることを喜べるわけです。そういう存在であることに、感謝しなければならないと思います。

未婚の女性が、ある日、妊娠に気づきました。恋人にそのことを知らせると、彼は墮胎するように懇願します。しかし、彼女はそれを拒み、恋人と別れて一人で子供を産みました。自分が今存在していることの喜びに気づいたからでした。

自分が人としてこのように存在していなかったら、自分世界はありません。生まれてくる子は生まれてきて初めて、自分の世界を持つことが出来るわけですから、その子に「存在」を与えたかったのです。

◆「命の縁を意識する」

一方、何かの理由で生まれなかった命があります。命の縁がなかったのです。そのようなことに思いを馳せるとき、命の縁についての見方はずっと深いものになってくると思います。

縁があって生まれてきた命ですが、やがて死を迎えます。いろいろな理由で死に至るわけですが、その縁は、命の縁と同じように自分の都合を超えたものです。人は命の縁によって生まれ、人として成立しているわけですが、その存在は死という終わりを内包しています。

だからといって、存在していることの喜びはかけがえのないものであることにかわりありません。

自分の命を実感し始めるのは人それぞれでしょうが、何かきっかけがあってのことが多いと思います。

元気に生活している人は、特に命を意識することはないかもしれません。「命はあって当たり前」だからです。しかし、自分の家族や親しくしている人が回復できない病になったり、亡くしたりしたときの悲しみ、苦しみに直面すると、自分の命について思いめぐらすことになります。

自分はどのような縁で命を与えられたのだろうか、その縁がなければ自分は存在しなかったのだろうか、と。

いくら考えても、それに答えを出すことはできません。命という縁は、基本的には自分では選べないものであり、生まれついた自分の身体も生まれた環境も無条件に与えられたものだからです。

日本人の平均寿命は非常に延びてきています。100年前は40歳代だったものが現在倍の80歳代になっています。

私たちにできることは、その選ぶことができなかった命をどう生きるかということです。

◆「病気を生きる」

親鸞聖人はある手紙で、「身体的病気と精神的病気は異なります。身体的病気へ配慮することは大切ですが、こころの苦悩への配慮の方を重視すべきです」と述べています。がんは精神的病気ではありませんが、病む人と家族にとって、がんは2つの苦しみが連動しています。

ある老僧は、日頃「病気は病気にまかせる」とよく言っていました。元気なときは、その言葉を聞いてその通りだと思っても、病気になったら病気に任せることは難しいでしょう。しかし、自己の命を運命に任せるという視点を持つことが、こころまで病ませない為には非常に大切です。

お矢ふせ

■坐禅会・写経会 ～みなさんもおいでになりませんか～

～静寂な雰囲気の中で、心身ともにさわやかに～

○第2・4日曜日

■坐禅会 7時～7時40分 リラックスできる服装でお出かけください。

■写経会 8時～概ね9時

写経台紙（お手本）、写経用紙はこちらで用意いたします。

硯、筆（毛筆）、筆ペン、墨等は用意いたしますが、数に限りがありますが、使い慣れた物をお持ちの場合はご持参ください。

■ヨガ教室 概ね9時30分～10時 無料

*坐禅会だけの場合は、参加費は無料です。

*写経会の入会費は1000円、納経料は300円です。



■「老後が不安？」

「人生の折り返し地点を過ぎた」という言い方がありますが、実は折り返し地点なんて「明日死ぬか」のよ、誰にも分からないんです。人生を30年で終える人もいるし、100年を超える人もいます。おぎゃーと生まれたばかりの子供が、すぐに亡くなることだってあります。寿命はだれにも分かりません。人生は折り返すものではなく、突然プツッと途切れるものなんです。

老後に不安を覚えるのはしかたのないことですが、もしかしたら誰でも明日死ぬかも知れないと言うことを、決して忘れてはいけません。もし、突然、死が訪れても後悔しないように、毎日を過ごすことです。後悔しない生き方とは、「心豊かに生きること」つまり、自分は「周りのものや人に生かされていること」に思いを馳せ、「ありがとう」と「おかげさま」の気持ちを大切に、生きること。そして、自分の可能な限り、自分の心やものを他の人に布施していくこと。

人生は、何歳からでもやり直すことができます。何しろ、今は生きているんですから、何だってできるんですね。

「明日死ぬかのように今日を生き、永遠に生きるかのように学べ」とは、インド独立の父、マハトマ・ガンジーのことばです。

■今月のことば

「働くということは『傍の人を楽にする』ということ」

語に「一日作（な）さざれば、一日食らわず」という言葉があります。一日働かなかったら、一日食べないという意味です。しかし、働くというのは仕事をするだけだけを指しているわけではありません。「傍の人を楽にする」という言葉があるように、夕食の準備を手伝ったり、一緒に暮らすみんなのことを思いやり、何かを手伝うだけでもよいのです。

■今月の行事等

○坐禅会・写経会 14、28日

○高坂小2年生 生活科探検 25日

○寺子屋 20、27日

***毎朝6時30分から、ラジオ体操やっています**